

天曆四年十月廿一日、皇太子泉入桂花坊略、太子與女御藤原安子乘牛車鹿差糸毛、車副朝服著深履、如中宮例、

〔三中口傳〕一出行事

車

車副 太政大臣六人、左右内四人、儀同三司之時、可具四人、歟、二人、歟、雖有議猶被其四人了、

〔永昌記〕保安五年四月十四日辛酉、參院源中納言同車賀茂祭御見物御幸也、本院河、白新院羽、鳥有別車儀、

○中 臨期御同車略 本院車後、御隨身、公種祇候略、御車副八人二藍上下、紅打衣縫物、牛網、糸村濃有金物、○下略

〔運歩色葉集〕牛飼字

〔大鏡三太政大臣實賴〕これたゞひらのおとゞの一男におはします、小野宮のおとゞと申き略、中

おとゞの御わらはなをばうしかいと申き、さればその御ぞうはうしかひをばうしつきのたまふ也、

〔安齋隨筆前編七〕牛飼童 乗車ノ牛を使ふ者を牛飼童と云、垂髪にて狩衣を著て鞭を持つ也、歳

十七八九などは勿論也、三十四十二至りても童と稱て、童の體にてある也、牛の使ひやふに巧拙

あり、

〔嬉遊笑覽器用二下〕車を御する者を牛かひ童といふ、木曾義仲が牛こでいと云へりし事、平家物語に

あり、こでいは健コシ丁テイなり、古晝を見るに、大鬚なるもあれど、頭はわらはなり、後世水主などは、立髪

半髪ハカフなると同じ儀なり、○中 其かみも下ぎまの者は、頭髪を童の如く束ねたるも多かるべし、

〔躑躅嘶餘〕一御車ノ時、牛飼也、菊童以下也、八瀬童子トハ別ナリ、

〔三中口傳〕一出行事

行列略 ○中